

平成28年2月定例会 環境農林委員会（急施議案）の概要

日時 平成28年 2月25日（木） 開会 午後 3時 1分
閉会 午後 3時12分

場所 第6委員会室

出席委員 武内政文委員長

蒲生徳明副委員長

岡田静佳委員、日下部伸三委員、伊藤雅俊委員、神尾高善委員、小島信昭委員、
江原久美子委員、井上将勝委員、石川忠義委員、前原かつえ委員

欠席委員 なし

説明者 河村仁農林部長、篠崎豊農林部副部長、松村一郎農林部副部長、
山崎達也農業政策課長、強瀬道男農業ビジネス支援課長、
奈良原栄司農業支援課長、持田孝史生産振興課長、橋本栄森づくり課長、
大冢早孝農村整備課長、田中誠農産物安全課長、中島一郎畜産安全課長

会議に付した事件並びに審査結果

1 議案

議案番号	件名	結果
第50号	平成27年度埼玉県一般会計補正予算（第4号）のうち農林部関係	原案可決

2 請願

なし

【付託議案に対する質疑】

岡田委員

かんがい排水事業、農地防災事業の両事業について、なぜ債務負担行為を設定し、早期着手を図ることになったのか。

農村整備課長

今回、国がTPP関連等の補正予算として打ち出したものの中には、本県で該当する事業がなく、このゼロ国債予算だけが該当した。早期に工事や設計委託を発注することで、速やかな事業効果の発現が見込まれるこの2地区に絞り込んで国に要求し、認められたものである。

岡田委員

ほかに、早期に着手可能な地区はなかったのか。

農村整備課長

工事に関して、ほかの地区については、実施設計が完了していないなど、早期の着工が難しい状況であった。農地防災事業のため池についても、早急に設計し、来年度以降、早期に工事を発注したいので、債務負担行為を設定するものである。

小島委員

かんがい排水事業について、受益地区では今までどのように用水を引いていたのか。

農村整備課長

資料1の3ページの位置図にある「現況水路」と書いている点線の開水路で用水を配っている。

小島委員

なぜ現状の水路から切り替える必要があるのか。

農村整備課長

現在の水路は開水路であることから、家庭の雑排水やごみが混入してしまい、維持管理に手間がかかっている。管水路にすることで、維持管理の省力化が図られるためである。

小島委員

管水路の整備後、現在の開水路はどうするのか。

農村整備課長

現在は用水路と排水路を兼用しているが、管水路の整備後は、地域の排水路として利用する。

小島委員

初めから、用水と排水を分離するためであると、簡潔に説明してほしい。(要望)

日下部委員

今回の事業について、工事や測量設計を行う業者はどのように選定するのか。

農村整備課長

議案の議決をいただいた後、公告を行い、一般競争入札等を実施して決定する。

【付託議案に対する討論】

なし